菊池川流域

米作り、二千年にわたる大地の記憶

シリーズ日本遺産 21

～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～

問い合わせ先
生涯学習課
社会教育係
☎0968(25)7232

菊池川 日本遺産 検索

踊り手は参勤交代時の奴のいでたち

八龍王神社での大野下雨乞い奴踊り奉納

降雨を祈るまつり②

大野下雨乞い奴踊り

この雨乞い奴踊りは、玉名市岱明町大野下の八龍王神社と大野下八幡宮で、毎年7月の最終日曜日に奉納される踊りです。踊り手は白法被姿に陣笠をかぶった江戸時代の参勤交代時の奴のいでたちをしており、手には御幣と「雨降ろう」という言葉をかけた「フロウ豆」を付けた竹を持っています。

加藤清正の頃（江戸時代初期）、干拓工事によってこの付近には新たに水田ができました。しかし、井手などの用水設備がなかったため、干ばつに見舞われると数日間神社に泊り込んで、雨乞いの祈祷をしていたといわれています。これに太鼓や鉦、踊りが加わり、江戸時代に現在のようなかたちになったと考えられています。踊りの動作には「こぶしで天を突くことで龍神を怒らせて雨を降らせる」「腰を落として足で地を踏み固め、豊作を祈る」という意味がこめられているとのことです。

戦前は雨乞いのときのみ不定期で行われていました。しかし、用水設備の普及により、水不足に悩まされることがなくなった現在は、大野下八幡宮の祭礼「総ごもり」に組み入れられ、毎年奉納されています。

米渡尾ひゅうたんまわし

和水町中央部に位置する米渡尾地区に、杉の木をご神体とした「明神さん」という社があり、そこで行われていた雨乞い神事です。祭りでは笛や太鼓を打ち鳴らし、腰の前に付けたひょうたんを回しながら踊って、降雨を祈ります。

以前は7月26日の祭礼時に雨乞いが行われていました。後継者がおらず一時中断されたものの、近年復活し、現在は地区のお祝い事やいろいろな行事の際に、民俗芸能として披露されています。

（担当：玉名市文化課、和水町社会教育課）

地元の祭りで披露される米渡尾ひゅうたんまわし

イベント情報

■高瀬裏川花しょうぶまつり

米作りの恩恵を受け発展した玉名市高瀬地区で行われる、初夏を告げるお祭りです。高瀬裏川沿いをメイン会場に、花しょうぶコンサートなどのイベントを開催。期間中は日没から午後10時までライトアップを実施します。詳しくは玉名市ホームページをご覧ください。

期間　5月24日㈮～6月8日㈯

会場　玉名市高瀬裏川水際緑地ほか

駐車場　高瀬大橋下菊池川河川敷駐車場

問(一社)玉名観光協会
☎0968(72)5313

Japan Heritage

昨年の高瀬裏川花しょうぶまつり